

平標山&仙ノ倉山山行報告

【山行日】2020年 6月 6(土) 曇り時々晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 2,200円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、安西、石澤、
齊藤、島田 福島、鶴見

【コースタイム】岩舟支所 P4:00=元橋 P5:50/6:05
~平元新道登山口 7:05/7:10~平標山の家
8:20/8:30 ~ 平標山 9:30/9:40 ~ 仙ノ倉山
10:30/10:55~お花畑ベンチ 11:30/12:05~
平標山 12:20~松手山 13:30/13:40~
鉄塔 14:10~元橋 P14:55/15:10=岩舟支所 P17:20



6月の秋田駒ヶ岳~焼石岳山行と、夏の北アルプス山行に向けてのトレーニングとして平標山&



仙ノ倉山山行を計画した。岩舟支所を4時に出発し、北関東道から関越道を進み月夜野ICで降りて国道17号線を新潟方面へ向かう。三国トンネルを抜けて苗場スキー場を過ぎ、元橋バス停車前に登山者用駐車場がある。有料駐車場だが舗装されていて、立派な水洗トイレが完備されている。

出発の準備を整えてトイレを済ませ、ストレッチを行い登山計画書を提出し出発する。トイレの脇から沢沿いの山道を進み、道路を横切ってそのまま沢沿いの道を行く。途中から林道

に出て、林道を50分程歩くと平元新道登山口に着く。丁度よいウォーミングアップが出来、小休止して衣服調整と水分を補給し出発する。ここからは本格的な登山道を登るようになり、カラマツ林の中階段状の登山道を登って行く。高度を上げて行くとブナ林の登山道になり、最後はジグザグの登りを繰り返して平標山の家に着く。山の家に着くと空が晴れ渡り、これから登る平標山や仙ノ倉山の雄大な景色が見渡せる。山の家脇の展望ベンチで休憩し、キーウイフルーツを食べ水分を補給する。トイレを済ませ記念写真を撮ったら出発するが、Fさんの調子が悪そうなので荷物を分けて軽くする。ここからは笹原に延びる急な木段を登って行くが、Fさんの調子が上がらない。サブリーダーと5人に先行してもらい、Fさんと我輩はゆっくり登ることにする。雄大な景色を見ながら登るので、テンションが上がるはずだが足取りは重い。



途中からガスで視界が悪くなったが、一步一步呼吸と併せて足を運び何とか平標山山頂まで登り切った。先発隊はすでに仙ノ倉山へ向かっていて、休憩を取ったらお花畑のベンチまで下る。ベンチ



に F さんのザックをデポし、水筒と貴重品は我輩があずかって仙ノ倉山へ向かった。お花畑は咲初めで、ハクサンコザクラやミヤマキンバイが咲いているがまだまだ数が少ない。いつもは真白く埋め尽くすハクサンイチゲもほんの少ししか見られず、ほとんどは葉が出たばかりの株であった。それでも咲いたばかりの花に癒され一步一步登って行き、仙ノ倉山山頂への登りにつくと上から6名が下って来た。バックバックと山頂に戻るよう言って、全員で山頂に

着き集合写真を撮る。計画の時間より早いので、果物や菓子を食べながらゆっくり休憩を取る。ここからは全員一緒に行動し、お花畑のベンチまで戻りランチの予定。ベンチの場所は鞍部なので風が強く、陽射しが無いので寒かった。「平標山頂はベンチが無いが暖かいが、ここは風が吹いて寒いけどベンチがある。どちらで昼食にしますか？」と聞くと「ベンチが有る方が良い」と言うのでここでランチタイムとする。今日はきのこうどんとコシアブラの天ぷらだが、風が強くとんが中々煮上がらない。Aさんは上衣を着こんでも寒さに震えている。やっとうどんが煮え、温かいうどんを食べ体が温まる。お茶を飲んだら後片付けし、平標山まで登り返すと山頂はとても暖かかった。大勢の登山者が休憩しており、全員で山頂写真を撮ったら下山する。下山は西に向かって尾根を下るが、こちらの尾根は丁度花が見頃で沢山の花を楽しみながら下れた。特にコイワカガミやイワナシ、ミツバオーレン、ツマトリソウ等が咲き競って見事だった。ケルンがある一ノ肩の先にはハクサンイチゲの



群生地があり、こちらは丁度見頃で皆さん大満足。高度を下げるにつれ晴れて来て展望が良くなり、ムラサキヤシオやヤマツツジの花に励まされ松手山に着く。この先からブナ林の急坂を下り、巨大な鉄塔を過ぎて長い急坂を下り切ると登山口の舗装道に出る。橋を渡った先を右に曲がり、川沿いの道を行くと駐車場に出る。靴を履き替えてトイレを済ませたら帰路につく。出口で駐車料金を払い、国道17号線に出て往路に戻る。途中、関越道の赤城高原SAに寄ったが、売店なども営業自粛しており閑散としていた。関越道や北関東道は順調に走り、予定通り岩舟支所に帰着した。